

FIMF 合同フォーラム 2008 「腸内共生菌と食の機能」
Function of Intestinal Microbiota and Food
会告・ホームページ原稿

1. 開催概要

HP : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbf/fimf/index.html>

会期 : 平成 20 年 11 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金)

会場 : 東京大学 安田講堂

大会長 : 上野川修一 (日本大学)

参加費 : 一般 事前登録 : 8,000 円 当日 : 10,000 円
学生 事前登録 : 4,000 円 当日 : 5,000 円
※ ホームページから参加登録を受付いたします。

合同主催 : (財) 日本ビフィズス菌センター
日本乳酸菌学会
日本食品免疫学会
日本動物細胞工学会
(社) 日本生物工学会乳酸菌・腸内細菌工学研究部会

協賛・後援 : (独) 科学技術振興機構
(財) バイオインダストリー協会
(社) 日本農芸化学会
(社) 日本薬学会
(社) 日本獣医学会
日本細菌学会
(社) 日本畜産学会
日本ゲノム微生物学会

大会事務局 : (有) アイペック内 FIMF 合同フォーラム事務局
東京都豊島区巣鴨 1-24-12
TEL : 03-5978-4067
FAX : 03-5978-4068

2. プログラム

特別講演 11月21日(金)

Toll-Like Receptor と粘膜免疫

審良 静男 (大阪大学)

シンポジウム 11月20日(木)

セッション1. 腸内共生菌の機能、食品機能に関する研究動向

食と腸内共生菌

上野川 修一 (日本大学)

Research for the 21st Century : Can We Draw a Blueprint of the Bowel Ecosystem ?

G. Tannock (University of Otago, New Zealand)

Interactomics in the Intestine

E. Zoetendal (Wageningen University, The Netherlands)

セッション2. セルシグナリング

Bacteria-Epithelium Cross-Talk

N. N. Nanthakumar (Harvard Med. School, USA)

乳幼児期の腸内フローラの群集構造と宿主免疫系への影響

中山 二郎 (九州大学)

セッション3. 腸内共生菌のメタゲノム

メタゲノム解析から見える腸内細菌叢の全体像

服部 正平 (東京大学)

MetaHIT, The European Project on Metagenomics of the Human Intestinal Tract

D. Ehrlich (INRA, France)

What Have Been Revealed After Whole Genome Analysis of Bifidobacterium and Lactobacillus?

R. D. Pridmore (Nestle, Switzerland)

シンポジウム 11月21日(金)

セッション4. 粘膜免疫

Intestinal Microbiota and Allergy

B. Bjorksten (Karolinska Institutet, Sweden)

C. O. Elson (University of Alabama at Birmingham, USA) *

*タイトルは、決定次第掲載をいたします。

セッション5. 腸内共生菌の代謝と宿主

ビフィズス菌のオリゴ糖代謝に関わる酵素の解析

山本憲二 (京都大学)

腸管レセプター、特に短鎖脂肪酸受容体の大腸機能制御に対する役割について

桑原厚和 (静岡県立大学・環境科学研究所)

Analysis of Carbohydrate Fermentation by Intestinal Microbiota Using TIM-2

K. Venema (TNO, The Netherlands)

パネルディスカッション 11月21日(金)

「腸内共生菌と食の機能」研究 –これからどうする日本?

司会: 宮田 満 (日経BP社)